

## 調査結果【訪問看護ステーション】概要（平成27年3月11日回答時点）

回答 51 施設 / 対象 101 施設（回答率 50.4%）

### がん患者への対応可能施設数

回答数	がん患者訪問可能施設	
	施設数	割合
51	47	92.16%

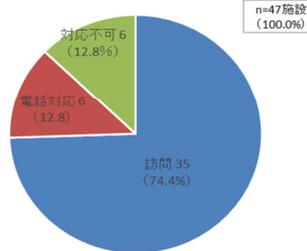
回答のあった51施設のうち、47施設（92.1%）ががん患者の対応が可能であった。

医療圏別にみると西和医療圏及び東和医療圏の回答のあった全施設ががん患者の対応が可能であると回答した。



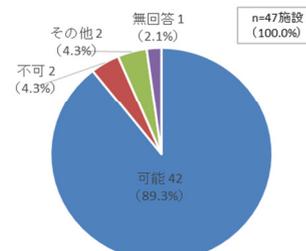
### 以下、がん患者訪問可能施設（47施設）の状況を示す

がん患者対応可能施設のうち  
緊急時対応のできる割合



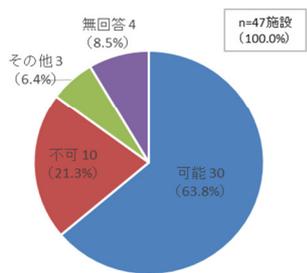
緊急の対応（24時間対応の体制）のある施設は、訪問による対応が可能なのは35施設（74.4%）、電話による対応が可能なのは6施設（12.8%）であった。

がん患者対応可能施設のうち  
営業日以外の訪問看護



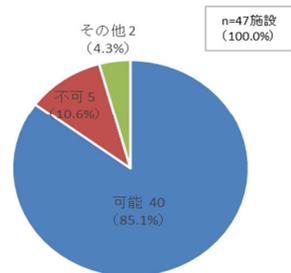
営業日以外の訪問看護の対応については42施設（89.3%）が可能であった。

がん患者対応可能施設のうち  
化学療法への対応



化学療法への対応については、30施設（63.8%）が可能であった。

がん患者対応可能施設のうち  
麻薬を用いた疼痛管理の対応



麻薬を用いた疼痛管理の対応については、40施設（85.1%）が可能であった。

### 訪問看護ステーションの機能強化を図る上で有効と思われること(抜粋)

- ・保健所との連携
- ・人の確保、ステーション間での協力関係
- ・看護師の人材確保人材育成が必要。育児と仕事を両立できるシステムおよび制度
- ・ナース不足の補充
- ・介護報酬も下がり、収益減少が明白であり、経営を安定させるために報酬の改善をお願いしたい。
- ・小規模ステーションを支え、協力し合う関係性づくりや大規模ステーションを中心とした全体連携。
- ・ニカ所ステーション利用などで、小規模ステーションをサポートする体制づくり。